

令和3年度

年間指導計画（評価計画） 美術 3年

1 評価の観点及びその趣旨

観 点		趣 旨
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象をとらえる造形的な視点について理解している。 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。
②	思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 年間指導計画

月	単元	学習事項（指導内容）	時数	観点	評 価 規 準	評価方法
4	学習内容と鑑賞	1 年間の学習内容とねらいについて 2 教科書の鑑賞	1	③ ① ③	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの見方や感じ方を大切にし、観察を深めることができる。 感じ取ったことを話し合う活動に関心をもつことができる。 自分なりの見方や感じ方を大切にし、鑑賞の能力を深めることができる。 作品を見て感じ取ったことを話し合い見方を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の観察 ワークシート 忘れ物点検
5 6 7	デザイン・表現する	1 透視図法の理解・演習 2 アイデアスケッチ 3 下描き 4 ポスターカラーによる着色	12	① ② ① ① ① ②	<ul style="list-style-type: none"> 想像を膨らませイメージを作り出すこと遠近法に関心をもち意欲的に表現することができる。 自由にイメージを広げ発想や構想ができる。 ポスターカラーの技法を生かした表現を構想することができる。 用具の特性を生かし表現できる。 光と影、グラデーションなどを生かし表現できる。 さまざまな形を組み合わせて効果的に表現することができる。 それぞれの作品から豊かな感受性やイメージを感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の観察 作品 忘れ物点検 ワークシート
7	鑑賞 東西の空間表現	東洋と西洋の美術作品の鑑賞（遠近法による視点）	1	① ③	<ul style="list-style-type: none"> 西洋と東洋の表現の違いや特徴について興味をもつことができる。 自分なりの見方や感じ方を大切にし、観察を深めることができる。 感じ取ったことを話し合う活動に関心をもつことができる。 東西の空間表現された作品を比べ、形や色彩の特徴、それらがもたらす感情、捉えたイメージの違いや共通性を感じ取れる。 多様な価値観を知り、尊重するとともに、今後の自主的な美術鑑賞の知識や見方を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の観察 ワークシート 忘れ物点検

月	単元	学習事項 (指導内容)	時数	観点	評価規準	評価方法
9 10 11 12	工 芸 ・ ス ク ラ ッ チ	1 スクラッチの理解・演習 2 アイデアスケッチ 3 下描き 4 ニードルによるスクラッチ	10	② ① ② ① ① ③	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸・工芸品に興味関心を持つことができる。 ・想像を膨らませイメージを作り出すことに興味を持つことができる。 ・表現方法を理解し、技法を身に付け、計画的に制作を行うことができる。 ・線の筆致を生かした発想と構想ができる。 ・線の筆致の濃淡の美しさを感じ作品に生かすことができる。 ・ニードルの筆致の濃淡を生かした表現ができる。 ・参考作品の鑑賞と生徒同士の相互鑑賞を通して色々なイメージと表現方法があることが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の観察 ・作品 ・忘れ物点検 ・ワークシート
1 2 3	工 芸 ・ タ ッ チ ス テ ン ド	1 ステンドグラスの理解・演習 2 アイデアスケッチ 3 下描き 4 カッターによるステンドグラス作業	10	③ ② ① ② ② ① ③	<ul style="list-style-type: none"> ・ステンドグラスに興味を持つことができる。 ・想像を膨らませイメージを作り出すことに興味を持つことができる。 ・表現方法を理解し、技法を身に付け、計画的に制作を行うことができる。 ・テーマに沿った発想と構想ができる。 ・色の美しさを感じ作品に生かすことができる。 ・カッターの使い方が適切である。 ・効果的な表現や道具の使い方ができる。 ・参考作品の鑑賞と生徒同士の相互鑑賞を通して色々なイメージと表現方法があることが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の観察 ・作品 ・忘れ物点検 ・ワークシート
3	鑑賞 東 西 の 表 現	東洋と西洋の美術作品の鑑賞	1	① ③	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋と東洋の表現の違いや特徴について興味をもつことができる。 ・自分なりの見方や感じ方を大切に、観察を深めることができる。 ・感じ取ったことを話し合う活動に関心をもつことができる。 ・東西の作品を比べ、形や色彩の特徴、それらがもたらす感情、捉えたイメージの違いや共通性を感じ取れる。 ・多様な価値観を知り、尊重するとともに、今後の自主的な美術鑑賞の知識や見方を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の観察 ・ワークシート ・忘れ物点検